

令和元年6月6日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K21139

研究課題名(和文) 国際バカロレア認証による大学入学者選抜と大学教育に関する国際比較研究

研究課題名(英文) International Comparative Study on University Admissions and Education for International Baccalaureate Students in Japan, Korea, and Singapore

研究代表者

石倉 佑季子 (Ishikura, Yukiko)

大阪大学・高等教育・入試研究開発センター・特任講師(常勤)

研究者番号：40762414

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本、韓国、シンガポールにおいて、国際的に通用する大学資格が取得できる教育プログラムである国際バカロレアが大学入学者選抜・大学教育に受容、実施、浸透、発展される過程を分析し、今後のIB認証による入学者選抜と大学教育の有効な枠組みの構築を図るため、大学教職員や国際バカロレア修了生にインタビュー調査を実施した。国際バカロレア・ディプロマは、国により国際バカロレアの活用方法は異なり、複雑かつ多様化していることが明らかになった。特に日本と韓国の国際バカロレアの活用方法は類似しており、近年大きく変わりつつある。長年IB生の受け入れ実績のあるシンガポールの事例が今後の展開の鍵となると言える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学における国際バカロレア生の受け入れは、近年大きく変わりつつあり、多くの大学で大学入学者選抜にどのように国際バカロレア・ディプロマを活用すべきか、そして大学に受け入れた後どのように教育フォローアップを行うかが問われている。本研究は今後の国際バカロレア生の受け入れの展開に貢献するものであると言える。

また、これまで日本における国際バカロレアに関する研究が海外に発信されていなかったため、本研究の成果は国内外にて発信するように努め、海外ジャーナルへの論文投稿、国内外での学会発表を行った。

研究成果の概要(英文)： This research aims to examine the process that International Baccalaureate is introduced, implemented, immersed in university admissions and education in Korea, Japan, and Singapore, which helps construct effective frameworks to accommodate IB students in Japanese universities. In order to do so, I interviewed university faculty and staff members as well as IB students attending each university.

It found out that the current admission practices in each country are diverse although IBDP is known as "an international passport." This create complex system. Especially practices in Japan and Korea are similar and have been changing largely these days. Practices in Singapore which has a long history to accept and accommodate IB students are going to be a key to explore the best way for the future practices in Japan.

研究分野：大学の国際化、大学入学者選抜

キーワード：大学の国際化 国際バカロレア 学生の多様化 入学者選抜 高等教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、文部科学省主導により「国際バカロレア(International Baccalaureate、以下 IB と呼ぶ) 認定 200 校計画」やスーパーグローバル大学事業により IB を活用した入学者選抜の導入が推進され、日本での IB への関心が高まりつつある。国内外共にこれまでの IB の研究は、中等教育に関するものが大半を占めていた。高等教育に関する研究は、国外では IB 修了生の進学先や進学準備、大学教員やアドミッションオフィサーによる IB の認識、高等教育における IB 修了生の学習成果等、高等学校と大学との接続(以下高大接続と呼ぶ)に関する事例研究が多くはないが多少は見受けられた。しかしながら、日本の高等教育における IB に関する研究は、これまで殆ど見当たらなかった。これまでの日本の高等教育における IB 研究は、IB 機構委託研究「日本の中等教育における IB デュアル・ランゲージ・ディプロマ・プログラムの実施とその影響」(代表:大阪大学人間科学研究科 教授/山本ベバリーアン 実施期間 2014.6~2015.6)にて、申請者が担当した日本における IB 認証による高大接続に関する研究と、IB 入試の先駆者である岡山大学の教員による IB 教育のコア要素である Theory of Knowledge (知の理論)の大学のラーニングコモンズにおける活用実践研究のみであった(Fast et al. 2014)。ゆえに、日本における IB 認証による高大接続に関する本研究は、新たな研究領域であり、今後一層必要とされる研究分野であると言える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本、韓国、シンガポールの大学において、国際的に通用する大学資格が取得できる教育プログラムである IB が大学入学者選抜・大学教育に受容、実施、浸透、発展される過程を、教育の借用理論(Ochs&Phillips, 2002)を用いて分析し、今後の IB 認証による入学者選抜と大学教育の有効な枠組みの構築を図ることである。本研究目標を達成するために、次の3点を調査する。1)大学入学者選抜に IB 資格が活用され始めた経緯・背景、2)入学者選抜における IB の位置づけ(入学資格・受験資格) 評価観点(どのような資質・能力を) 選抜方法(どのような基準・方法で評価するのか) 3)大学教育における IB 資格の取り扱い(大学単位認定・飛び級)及びに学習環境の整備を調査した。

3. 研究の方法

まずは、国外での高等教育における IB の位置付けを把握するため、文献を整理した。また、IB 認証による入学者選抜に関する文献に限らず、シンガポールや韓国における大学入学者選抜全般に関する文献、各国の IB を取り囲む政府の政策を知るための政府資料等、多岐に渡った文献を調査した。

研究対象として、日本と類似した文化背景を有し、入試改革を日本より先駆けて行っている韓国・シンガポールの大学(主に国公立大学)と日本において IB 資格を活用している国公立大学を比較研究した。主に国公立大学を対象に研究したのは、日本での IB 資格を活用した入試が遅れていること、また、全国统一試験を活用し、知識の再生を1点刻みに問い、その点数により選抜する入試を実施してきた国公立大学が、21世紀型能力、いわゆる新しい能力を育成する教育を受けてきた IB 修了生をどのように受け入れ、その後彼らが満足のいく学習環境を提供しているのかを考察するためである。研究対象国・大学を以下のように設定した。

<IB 入試を導入した日本の国公立大学、および国際化拠点整備事業(以下 G30 と呼ぶ)英語コース入学者選抜に IB 資格を活用した国公立大学>

- (1) 筑波大学
- (2) 岡山大学
- (3) 大阪大学

<入学者選抜に IB 資格を活用している韓国の日本の国公立大学、および IB 修了生の受け入れ実績ある私立大学> 韓国は国公立大学数が少ないため私立大学も研究対象に含む。

- (1) Seoul National University (ソウル国立大学)
- (2) KAIST (韓国科学技術院)
- (3) Yonsei University (延世大学)

<入学者選抜に IB 資格を活用しているシンガポールの国公立大学>

- (1) National University of Singapore (シンガポール国公立大学)
- (2) Nanyang Technological University, Singapore (南洋理工大學)
- (3) Singapore Management University (シンガポールマネジメント大学)

上記の大学のアドミッション・オフィスを訪問し、入試に関わる教職員および各大学に進学した IB 修了生にインタビュー調査を行った。アドミッション・オフィスの教職員には 1)大学入学者選抜に IB 資格が活用され始めた経緯・背景、2)入学者選抜における IB の位置づけ(入学資格・受験資格) 評価観点(どのような資質・能力を) 選抜方法(どのような基準・方法で評価するのか) 3)大学教育における IB 資格の取り扱い(大学単位認定・飛び級)及びに学習環境の整備について、IB 修了生には IB 校から大学への接続に関し、聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

国際バカロレア・ディプロマは、International Passport と呼ばれ、国際的に通用する大学入学資格であるが、国により国際バカロレア・ディプロマの活用方法は異なり、複雑かつ多様化しているということが明らかになった。特に日本や韓国の大学入学者選抜における国際バカロレア・ディプロマの活用方法は類似しており、資格を取得した国や IB 修了生の国籍により扱いが異なる。国内で IB を修了した日本・韓国人学生よりも、海外で IB を修了した日本・韓国人学生の方が受験しやすく、国内 IB 修了生は、全国統一試験の受験を求める国内国立大学ではなく、国際バカロレアの最終試験のスコアを入学者選抜に活用している国内私立大学や海外大学に進学をする傾向にあった。しかしながら、近年日本において、この状況は変わりつつあり、多くの国立大学では入学者選抜における IB の活用方法の見直しがなされ、IB 特別入試を実施している大学が増加している傾向にある。現在多くの大学が入学者選抜における改革に力を入れている一方で、入学者選抜よりも大学教育への接続に課題を感じている学生が多くいる。それは、IB の教育と日本の大学における教育に大きな乖離があり、講義中心の日本の大学教育への適応に課題を感じている。今後、大学の入り口から出口までの一貫した改革が必要となる。

シンガポールの大学では、IB 特別入試は実施しておらず、多様な学生が出願できるよう様々な大学入学資格を入学者選抜に活用している。また、大学教育においても、講義型授業からアクティブラーニング型授業まで多様な学びに対応した授業を提供しており、学生の授業の満足度は非常に高い。現在、我が国において IB 特別入試のような枠組みが入学者選抜において実施されているが、今後 IB 修了生のみならず、多様な学生がスムーズに日本の大学に接続できるような枠組みを考える必要がある。シンガポールの事例が今後の日本の大学改革の展開の鍵となると言える。

これまで日本の高等教育機関における国際バカロレアに関する研究が海外に発信されていなかったため、本研究の成果は国内外にて発信するように努めた。国際ジャーナルである Boston College の International Higher Education ジャーナルに論文を投稿、そして国内外の高等教育や国際教育関係の学会にて学会発表をした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

- (1) Yukiko Ishikura. (2018) International Baccalaureate in Japan and Asia. International Higher Education. Boston College 96 (Winter) [査読あり]

〔学会発表〕(計 6 件)

- (1) Yukiko Ishikura. An indicator of internationalization?: International Baccalaureate students are knocking on the door of Japanese national universities. QS Asia Pacific Professional Leaders in Education Conference and Exhibition, Seoul Korea, November 2018. [口頭発表・査読あり]
- (2) Justin Sanders and Yukiko Ishikura. The role of university admissions in expanding the IB DP in Japan, 日本国際バカロレア教育学会第三回大会, 於：岡山, 2018 年 9 月 8 日. [口頭発表・査読あり]
- (3) Yukiko Ishikura. What is happening to college admissions at Japanese national universities: The impact of EMI programs In the panel section International recruitment and admissions for EMIs in non-English speaking contexts. Asian Pacific Association for International Educators, Singapore, March 2018. [口頭発表・査読あり]
- (4) Yukiko Ishikura. Are Japanese national universities ready to attract and accommodate International Baccalaureate students? Asian Conference on Education 2017, Kobe Japan. October 2017. [口頭発表・査読あり]
- (5) Justin Sanders and Yukiko Ishikura. Government internationalization initiatives and university admissions reform: The case of introducing the IB Diploma Programme to Japanese universities. 14th International Workshop on Higher Education Reform Research Institute for Higher Education, Hiroshima Japan, September 2017. [口頭発表・査読あり]
- (6) Beverley Anne Yamamoto and Yukiko Ishikura. IBDP students and the transition to higher education: An exploratory study of “readiness” both on the part of students and Japanese universities, 日本国際バカロレア教育学会第二回大会, 於：東京, 2017 年 9 月 2 日. [口頭発表・査読あり]

6. 研究組織

研究協力者

- (1) 研究協力者氏名：山本 ベバリーアン

ローマ字氏名：YAMAMOTO, Beverley Anne

(2) 研究協力者氏名：サンダース ジャスティン

ローマ字氏名：SANDERS, Justin

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。